

桂坂山の手倶楽部だより

(第22号)

平成22年11月1日発行

桂坂山の手倶楽部だより編集委員会



役員会だより

1. 第1回合同会議開催(8/29)

会議に先立って会長より

- (1) 当倶楽部は現在会員数249名で現状維持され、皆さんの口コミが功を奏しているものと思われお礼を申したい。
- (2) 来年度より5単位倶楽部で活動を始めますが、いづれ6~7単位倶楽部に拡大されるので、魅力のある同好会の充実を図っていききたいと思います。
- (3) この秋季は、声掛け活動、文化芸能祭と一泊旅行(区老連)、趣味の作品展等々行事が重なり関係者の会員さんにご苦労さんですが、よろしく願いたい。

新任の地域委員、同好会責任者の紹介後、会議に入りました。

全体活動、同好会活動、区老連活動の報告の後、来年度の「20周年記念事業実施計画」について実行委員会乗本委員長より説明し全員の賛同を得ました。本案は来年度総会で提案されます。

市・区老連だより

1. 市老連の囲碁将棋大会開催

福利厚生委員 松本 初次

京都市老人クラブ主催の囲碁将棋大会が、8月20日ふれあい会館で開催されました。この大会は、各区老連の優勝者が参加してクラス毎の京都のナンバ・ワンを決めるもので、山の手倶楽部から囲碁Aクラスで九野嘉寿氏、同Cクラスで餐場重雄氏が西京区の代表として出場されました。早朝からの白熱した戦いの上、九野氏はAクラス3位、餐場氏はCクラス準優勝の成績で表彰を受けられました。おめでとうございます。



2. 文化芸能祭、作品展、市民すこやか作品展開催

文化委員 中口 利秋

西京区老連主催の第20回文化芸能祭が9月11日(土)、作品展が9月10日(金)11日(土)にウエスティで同時に開催され、来場者は両日で950名の多数の方々に観賞観劇して頂きました。

芸能祭では30組の方々が出演され、桂坂山の手倶楽部よりトウインクルズのハ・モニカ演奏、カラオケ同好会の長谷川文彦さんが「雪国」、樋口アヤ子さんが「むらさき川」を、のど自慢で美声を披露されました。



芸能祭のトリで、コ・ラス同好会の皆様が「さびしいかしの木」「浜千鳥」「すみれの花咲く頃」を合唱されました。みんなで歌おうでは、コ・ラス同好会の皆様と共演で蛍光ライトをかざしながら大合唱で幕となりました。



作品展では221点が展示され、桂坂山の手倶楽部から絵画12点、書道24点、俳句8点、写真8点の計52点の力作が出展されました。

市民すこやかフェアが市老連主催で、9月4日、5日の両日京都市勤業館みやこメッセで作品展が開催されました。西京区老連より71点が出展、桂坂山の手倶楽部より絵画6点、書道4点、俳句8点、写真4点の計22点が出展されました。

ウエスティ、みやこメッセ共々出展、出演された皆様、観賞観劇下さいました皆様どうもありがとうございました。

3. 区老連ペタンク大会に参加 若手委員 長谷川 文彦

去る10月7日(木)、西京区老連若手委員会主催のペタンク大会が絶好のスポ・ツ日和の中、盛大に開催されました。西京区全体から130名余の選手が境谷公園グラウンドに集まり、まず、榎枝区老連会長、佐野若手委員長、来賓の西村市会議員の挨拶、山岸審判委員長のル・ル説明等の後、競技が8ブロックに分かれて開始されました。

我が桂坂学区からは、A、B、C3チームが参加し、それぞれ一投一投に熱のこもった試合展開を広げ、歓声があちこちで沸く熱戦の結果、桂坂Aチーム(乗本政三さん、細谷修三さん、岡村英明さん)、同Bチーム(辻タカ枝さん、鹿取珠江さん、長谷川洋子さん)が3勝し見事なブロック優勝に輝きました。桂坂Cチーム(田中健一さん、西村明さん、岡村重臣さん、長谷川文彦)は、善戦及ばず2勝1敗でした。この大会で特筆すべきことは、前出の桂坂Bチームの女性です。選手の皆さん、大変お疲れさまでした。



なお、優勝されたどちらかのチームに、京都市老連ペタンク大会(11月)の出場依頼があるかもしれません。その時は、また頑張ってお賞されることを期待しています。

4. 区老連主催ウオ・キング大会に参加 体育委員 岡村 英明

10月13日(水)恒例の「老人の日記念ウオ・キング大会」が、15学区・180名(内桂坂学区16名)の皆さんが参加して、昨年と同じ小畑川堤防一帯で開催されました。



8時30分頃集合を終えた参加者は、定刻9時、榎枝会長の開会宣言の後、田中体育委員長の笛の合図で出発、隊列は伸びながらも途中休憩2回を経て、予定より早く11時前に、終着点エミナ・ス裏小畑川堤防に全員無事到着し、記念撮影などの後解散しました。

帰宅後、歩き終えた快い満足感に包まれておりましたところへ、チリ落盤事故救出者のTVニュース。ともに、忘れられない嬉しい一日となりました。来年も開催されたら、今回と同じように元気に歩けるよう、足腰の鍛錬を続けたいと思いました。

その他のお知らせ

1. 環境施設「北部クリンセンタ」見学会 研修委員 伊藤 光男

平成22年9月16日の「環境にいいことする日」と定められているこの日に、参加者20名と随員2名と共に環境施設局のバスで最新の処理施設（電力＝太陽光発電）のクリンセンタへ入った。直後に、圧縮されたアルミ缶の大きないくつもの固まりに目を見張りながら説明員の後をつけた。おどろきは、ごみピットに投入されている量の多さ、それをガバツとつかんでホッパへ落とし込むクレーンを見ることができた。この場所が気に入ったのか皆は動こうとしなかった。



見学コースのポイントごとに映像を活用しての説明があり、また立体映像のビューシアタでのごみ減量の啓発や皆の質問に答えてもらいました。この見学会で見せられて教えられて、改めて肝に銘じたことは、3つのキーワード3R（スリ・アール）でした。

Reduce:ごみを出さない。 Reuse:ものを繰り返し使う。

Recycle:新しいものに生かす。

記録づくめの猛暑、ゲリラ豪雨、氷河融解など地球温暖化による異常気象で甚大な被害が世界中で起きている。未来の子供達にきれいな地球を残すために、即3Rの実行は基より、緑を増やしCO2を減らすことに努めなければと、有意義な一日でありました。

2. 趣味の作品展開催 作品展担当 中口 利秋

10月28日（木）～29日（金）9時30分から16時まで、京都中央信用金庫桂坂支店2階ホールにて第17回趣味の作品展が開催されました。

書道、絵画、俳句、写真の各同好会の皆様は、この作品展に向けて日頃から研鑽の成果を観て頂こうと、それぞれ自慢の力作を、また、一般会員の皆様からも個性豊かな作品を出展して頂き、昨年



より33点多い総数154点の展覧となり、盛大な作品展となりました。

2日間の来場者は200名を超え、お陰様で好評裏に終える事が出来ました。

展示会開催に際しまして、多くの会員の皆様に出展、観賞を頂き誠にありがとうございました。



会員の投稿

囲碁雑学 あかしあ 西澤 四郎

囲碁に興味のない方でも、梅沢由香里や井山祐太と言えれば聞き覚えがありませんか。中学や高校から院生となってプロの世界に飛び込むなかで、梅沢由香里は21歳でプロ試験に合格した慶大卒のおそまきな棋士で、今は東大や慶大でも囲碁のクラスを持っているそうです。少年ジャンプの「ヒカルの碁」の監修をしたのが有名ですが、なによりも美人なもので男性ファンが多いようです。一方、井山祐太は囲碁の三大タイトル「名人」を、昨年弱冠20歳と言う史上最年少でタイトルを奪取し、世界に通じる棋士と言えれば彼以外には考えられません。出身地は東大阪、同じ関西人として親しみを感じます。

囲碁は、飛鳥時代に仏教と共に中国から朝鮮半島を経て日本に伝来したと言われていいますので、随分昔の事です。それでも囲碁が知られるようになったのは、徳川家康が囲碁好きだったので、御城で碁が

打ち始められたのです。当時、囲碁にも家元制度があり、本因坊、井上、安井、林の家元四家が将軍の前で勝負をする御城碁が始まったのです。なによりも有名なのは、第14世本因坊の跡目となった秀作は御城碁19戦無敗と言う記録で最強の棋士だったようです。当時江戸でコレラが大流行し、止めるのを聞かずに看病した秀作は34歳で死に、御城碁は安政大地震(1855年)により中止となり230年余の歴史を閉じました。

昭和に入って、日本の囲碁の普及に努めたのが木谷實で、いわゆる「木谷道場」です。その道場から現在の日本棋院理事長大竹英雄や感ピュ-タ-の石田芳夫、宇宙流の武宮正樹など輩出されました。戦後現れたのは酒、ギャンブル、女性関係、借金など破天荒な一生を過ごした藤沢秀行です。秀行は昭和30年代から若手の育成に努め研究会を開き、現在の中堅棋士の殆んどは「秀行塾」の塾生となりました。その塾生らと訪中して、中国の若手棋士との手合や指導を行い棋力の向上に貢献しました。今日の世界の頂点に立っている中国の棋士は、これまた秀行の門下生と言っても過言ではありません。

さて、囲碁の用具は碁盤と碁石です。碁盤は宮崎産の榎(カヤ)が最上級とされていますが樹齢数百年の大木が必要で、近年とれなくなって中国雲南産が主流となっています。しかし、中国産も高価となり、今は桂やいちょうが上物とされています。榎が重用されるのは打ち心地が柔らかく感じるからです。板状の碁盤もありますが、やはり足付盤が上物で、足はクチナシの実の形をし対局中に他人の「口無し」を意味したものです。碁盤の裏側にへこみがありますが「へそ」と呼ばれ、石を打った時の響きを良くする効果があります。このへそは、別名「血溜り」と言い側で口を出す人を切って血を溜めたとされています。盤上の黒い線は、日本刀の刃を丸めて黒漆を付け刃先を押しつけて線を引くと線が微妙に盛り上がります。宮崎産榎の9寸柁目、日本刀による線引きとなれば、数百万円を超えるそうですが、お目に掛かったことはありません。

碁石は、白黒2種類ありますが、黒石は三重県熊野市で産出される「那智黒石」が使われ、硬質で黒い石材が適しているそうです。白石は「はまぐり」で作られています。明治の頃は桑名の蛤が最良とされていましたが無くなってしまい、宮崎県日向市お倉ヶ浜に代わってしまいましたが、いまやメキシコ産にたよっています。そして黒石は白石より0.3ミリほど大きく作って、見た目が同じ大きさに見えるようにしているそうです。この白黒の石を入れる入れ物を碁笥(ゴケ)と言いますが、桑の木で作った物が上物です。

囲碁は日本、中国、韓国共有の文化だと言われ、ほんの20~30年ほど前までは日本が指導的な立場で世界に君臨していました。それが、今では中国、韓国に一步も二歩も後れをとってしまいました。韓国では6人に1人が碁を打ち、プロ棋士はプロ野球選手よりはるかに大きな収入を得るそうです。

お知らせ 入会者の紹介(8月1日以降)

お名前	自治会	入会された同好会	お名前	自治会	入会された同好会
有田 光伸	もくれん	日、謡、歩、社、カ、絵	疋田 純一	くすのき	ゴルフ
若林 茂一	ひいらぎ	ゴルフ	疋田 典子	くすのき	ゴルフ
菊野 清子	ひいらぎ	日帰、GG、絵画	中川 文明	にれのき	ゴルフ
丹治 洋子	さつき	ハイキング	萩原 英夫	かえで	カラオケ
辻 庸介	かえで	ゴルフ、絵画	藤松 絹子	もくれん	未定
伊藤美也子	かえで	コ-ラス	足立 勝彦	つばき	ゴルフ、マ-ジャン

退会された方 : 野口 田鶴子さん

今年度の編集委員 八木 兵司、安楽 つねみ、岡村 英明、足立 郁男、西澤 四郎